

(No. 49)

事例名	「かんじゆく座」(シニア劇団)
地域	東京都
実施主体	かんじゆく座(主宰 鯨エマ)
活動要約	60歳以上の熟年男女によるアマチュア劇団
主な分野	「演劇」、「趣味」
主な関係者	団員:45人(60歳以上、女性が4分の3)
キーワード	シニア演劇

■活動のきっかけ・経緯

●主宰者 鯨エマさんのプロフィール

- ・もともと役者志望であったが、13年前に青年座をやめ、現在は劇団「海千山千」を主宰すると同時に、脚本も書く。
- ・11年前から障がい者のヘルパーの仕事をしている関係で、障がい者の観客が多くなったが、劇場がバリアフリーでないことがわかった。彼らに芝居を見ることを楽しんでもらいたかったが、手間がかかるわりにはなかなか広がらない。
- ・障がい者でなく、高齢者で芝居をやってみたい人をサポートすることに方向転換した。

●「かんじゆく座」立ち上げ

- ・2006年9月、演劇仲間(4人)とともに、朝日新聞紙上で素人シニア演劇の「かんじゆく座」を募集したら13人の応募があった。4回の体験レッスンに延べ40人近くが参加。そのうち13人が入団した。
- ・2007年3月に公演を行い、参加したメンバーが「燃えて」きた。
- ・3回目の公演がNHKのローカルニュースで放映され応募が殺到。定員20名だったが、現在は週1回組と週2回組で合計45名のメンバーとなった。
- ・2011年秋、東京・池袋で第1回「シニア演劇大会」を主宰し、全国から16劇団が参加した。

■活動内容

●メンバー構成等

- ・団員は女性が4分の3。仕事をしている方、主婦などさまざまなメンバーである。
- ・月謝は、週2回組は60~69歳15,000円、70歳以上13,000円。週1回組は60歳~69歳8,000円、70歳以上7,000円。
- ・シニアに「演劇で元気になってもらう」ことが劇団の目的である。

●団員の感想

<T. Kさん> (70代男性)

- ・芝居をやりたくて、19歳の時に九州から上京。新聞配達店に住み込みながら生活費を稼いだ。
- ・東京外大ドイツ語学科に入学。「語劇祭」では、ドイツ語芝居の脚色・資金調達・衣装借り出しなどをひきうけた。

- ・その後、いくつかの職場を経て40歳から中学・高校の英語教員を定年まで勤めた。学校の教員という職業は、生徒の前で演じるという要素もあり、役者みたいなものである。
- ・定年後、かんじゆく座の第一期生になる。
- ・劇団は楽しい。セリフとストレッチ体操で、介護予防にもなる。
- ・同時期にカンツオーネも習い始めており、両方を両立させるや時間のやりくりが大変。

<A. Kさん> (70代女性)

- ・専業主婦の傍ら、健康づくりに自彊術の教室に30年間通いつつ、歌が好きで歌謡ポップスの個人レッスンを受けていた。
- ・劇団1期生募集の広報を見た友人の誘いで気軽に見学したのがきっかけで入団、夫との死別や腰痛などで中断しつつも、6年間、新宿に通ってきている。
- ・個人で臨む歌の発表会は緊張するが、仲間と一つのを創り上げる劇団公演は、人から元気をもらえて楽しいし、達成感が得られる。
- ・自分とは縁のなかったバーのマダム役をやったときが一番楽しかった。役作りのためにバーにも出かけてみた。ミュージカル「ねこら！」の役作りで都庁やホームレスも見て回った。
- ・「車椅子になったら、その役を用意する」という主宰者の声に、続けられる限りは続けたいと思う。



<けいこ風景>

■展望と課題

- 「シニア演劇」の展望と課題について、鯨エマさんは次のように語る。
- ・シニア劇団は、今後、ひとつのジャンルになるだろう。1回舞台を経験すると、観客の反応が好評でやめられなくなる（人前で笑いをとることの快感）。舞台表現をするうえで、自分の長い人生経験が無駄にならない。
 - ・しかし「年寄りの自己満足」には終わらせたくない。社会の中でプラスのオーラを出してほしい。
 - ・全国にシニア劇団はかなりあるはずだが、全容は把握できていない。
 - ・今後、NPOを作りシニア劇団の横のつながりを広げたい。公的資金援助も受けているが、十分な額ではない。

連絡先	かんじゆく座（主宰：鯨エマ） 住所：東京都 電話番号：090-8083-6888 メール：kujiraema@krd.biglobe.ne.jp http://kujira-enter.sakura.ne.jp/kanjukuza/
------------	--

(No. 50)

事例名	福祉劇団「鶴亀」
地域	宮城県柴田郡柴田町
実施主体	福祉劇団「鶴亀」
活動要約	介護サービスの普及啓発を目的とした福祉演劇活動
主な分野	「演劇」、「介護・ケア」、「趣味」
主な関係者	団員：22名（60～80代、平均72歳、男性は9名）
キーワード	福祉劇団／シニア演劇／地域ボランティア

■活動のきっかけ・経緯

平成2年：厚生省の「寝たきりゼロ作戦」が公表されたが、ヘルパー、デイサービスなど横文字が多く、わけがわからない。

平成3年：公民館長だった菊地さんが、柴田町高齢者サービス推進事業大会において、劇にしたらどうかと提案。

日赤の「寝たきりになったお殿様」という絵本があり、それをもとに、当時ボランティア活動をしていた加茂紀代子さん（劇団の現監督）に脚本執筆を依頼した。（絵本原作者の了解を得て執筆した）

20名くらいの役者はすべて素人であったが、町ではなんらかのボランティアをしていた。一回きりのつもりで、夢中で演じた。（上演時間は1時間）

平成4年：村田町で公演のとき、地域のお偉方をゲストで舞台出演してもらったら、それがえらくうけた。その後、声をかけると、皆さん、劇に出たがる人ばかり。

その頃、福祉劇団「鶴亀」の名称を誰かにつけてもらった。

平成10年頃の介護保険導入前には、宮城県を中心にほぼ毎週、公演依頼があった。

■活動内容

●劇団員

・劇団員22名、うち男性9名。61歳～81歳、平均年齢72歳。

●演劇の内容

- ・福祉関連の4本の脚本がベースになっている。脚本の骨子は介護保険制度の説明などだが、ところどころにアドリブや「笑い」をいれると観客が喜んでくれる¹。
- ・これまで300回以上の公演を行っているが、呼ばれればどこにでも行く。終末期治療で集中治療室に入院している患者さんを慰問したり、入院している子供たちを訪問したこともある。
- ・素人の高齢者が多く、セリフが覚えられない人は、「大福帳」や「扇子」に書き付けてそれを見てもらったりした。緊張のあまり本番前に飲酒し、舞台に景気をつけた役者もいる。

¹ 「(家老)殿は世話をしてくれる者は、若くてぴちぴち働く人が良いと申して居る。そのようなことは出来るのか？（相談員）はい、何を希望なのかを選ぶことができます。（殿さま）風呂もか。（相談員）勿論でございます。（殿さま）では、ピチピチギャルと一緒に入れるのか？（相談員）殿、それは別料金でございます。」（「今、とのさま介護中」の台本より）

- ・4月1日には、宮城県亶理町で被災地慰問公演を予定している。



＜「今、とのさま介護中」の舞台＞

●団員のコメント

＜菊地真一さん＞（70代男性、殿様役）

- ・「舞台の上で死ねれば最高だ」「自分の葬式は、団員は劇の衣装で送ってほしい」

＜大槻則子さん＞（70代女性、奥方役）

- ・障がい児通所施設でボランティアをやっていた。
- ・鶴亀劇団には、ある日、監督から奥方役の都合が悪くなったので、とりあえず足袋だけ持ってきてといわれて出演したのが、きっかけ。
- ・名士を呼び込むのが得意。浅野宮城県知事（当時）にメイクして出演してもらったこともある。
- ・ご当地のゲストには、町の教育方針や福祉のことを話してもらう。

＜津野ふみよさん＞（60代女性、劇団員で最年少）

- ・全国でただ一人しかいない女性菊師。（最近は菊人形展がなくなった）
- ・劇団鶴亀はあこがれで、歳末助け合いで町内を練り歩く姿を見ていた。
- ・当初は裏方であったが、入団してからは、殿と奥方以外はすべての役をやった。
- ・劇団は家族のようなものである。

■工夫している点

- ・劇団員だけでなく公演先の首長や名士などに舞台にあがって劇に参加してもらおうと観客の反応がいい。
- ・プロの役者ではないので、自分たちが楽しく演じることが大前提であり、それが長続きさせる秘訣である。

連絡先	<p>柴田町社会福祉協議会</p> <p>住所：宮城県柴田郡柴田町大字船岡字中島 68 番地</p> <p>電話番号：0224-58-1077 メール：mirai@s-shakyo.jp</p> <p>URL: http://www.s-shakyo.jp/122.html</p>
------------	--